

村上市景況調査報告

令和元年7～9月期の実績と令和元年10～12月期の見通し

調査時期：2019年9月中旬～2019年10月上旬

調査対象：村上市内事業所 200社 有効回答数 170社（回収率85.0%）

〔業種別内訳〕 卸売・小売業62社、建設業41社、製造業30社、飲食店・宿泊業21社、サービス業46社
〔地区別内訳〕 村上地区104社、荒川地区33社、神林地区21社、朝日地区19社、山北地区23社

実施機関：村上市地域経済振興課

村上商工会議所、荒川商工会、神林商工会、朝日商工会、山北商工会

分析機関：村上商工会議所

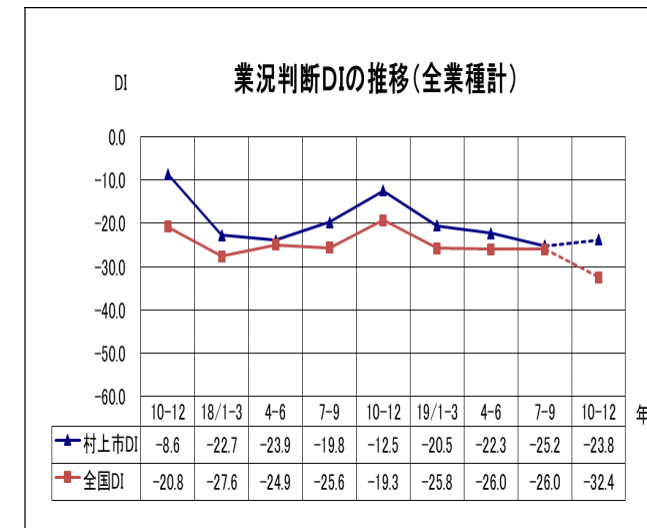
全国状況：全国中小企業動向調査結果【小企業編】（2019.7～9実績、2019.10～12見通し）

日本政策金融公庫 総合研究所

DI = 「良い」企業割合 - 「悪い」企業割合（売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。）

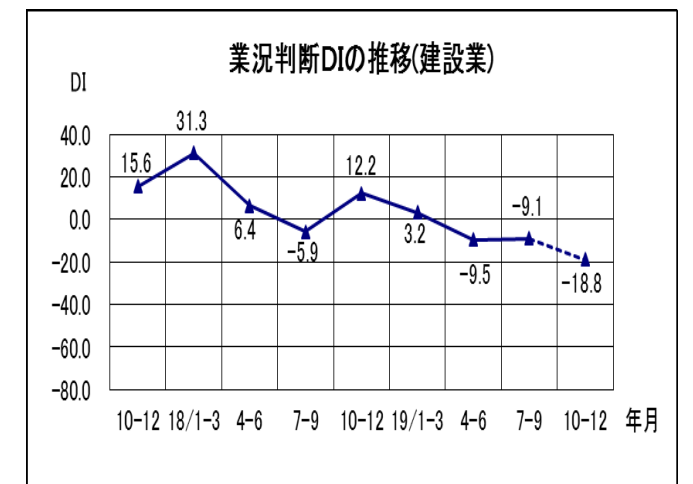
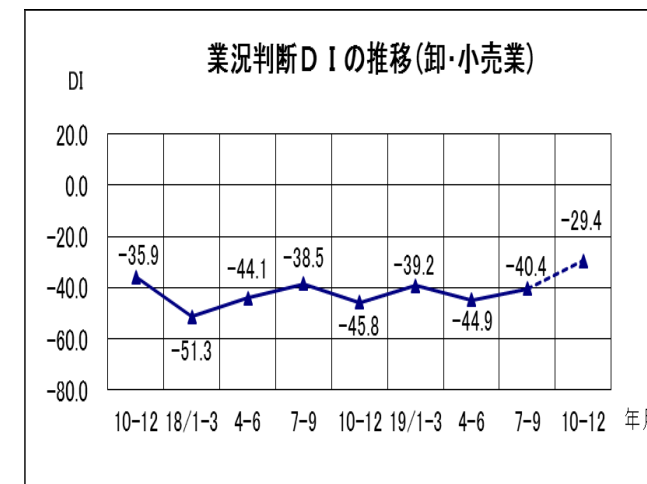
『足踏み状態が続き、先行き見通しも慎重』

■村上市の業況



今期(19/7～9月期)の業況判断DI(全業種計)は、前期(19/4～6月期)と比べ、2.9ポイント低下し、▲25.2となった。低下は3期連続で、前期における今期予測より2.2ポイント下回り、前年同期比でも5.4ポイント下回った。今期DIが低下した要因は、製造業、飲食・宿泊業、サービス業の3業種でDIが低下したため。

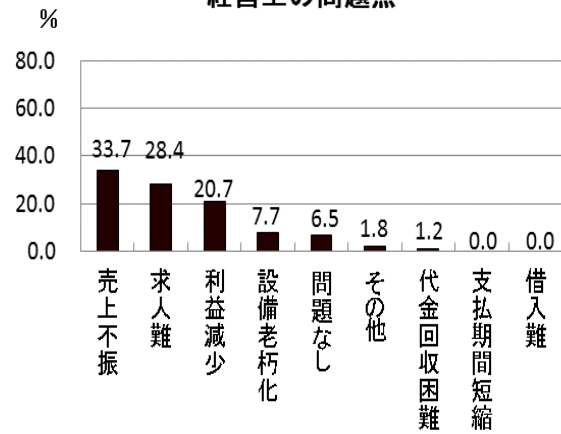
来期(19/10～12月期)については、1.4ポイント上昇し▲23.8となる見通し。建設業及びサービス業以外の業種で改善が見込まれている。年末需要への期待感が伺える一方で、消費税率引上げによる影響、人手不足の深刻化、原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、貿易摩擦激化、世界経済の動向などの不透明感により、先行きは慎重な見方が続いており注意が必要である。



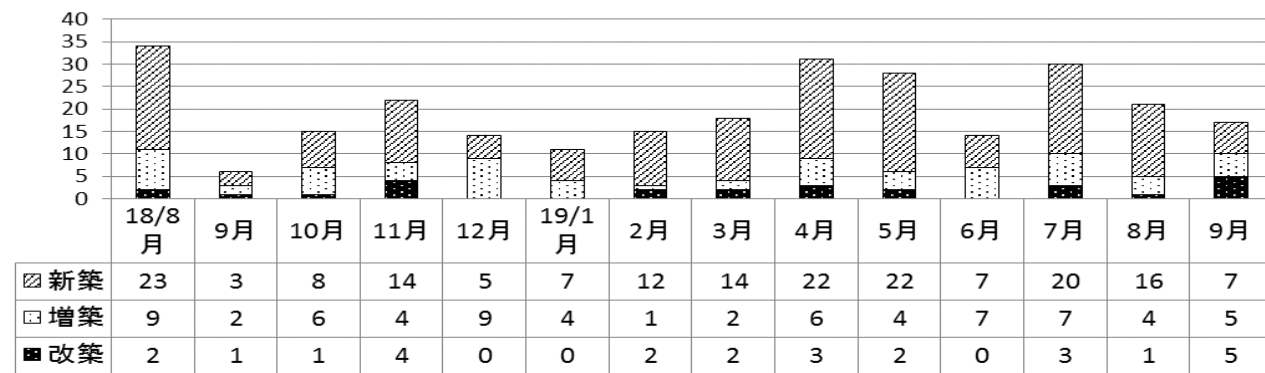
在庫状況の推移(製造業、卸・小売業)



経営上の問題点

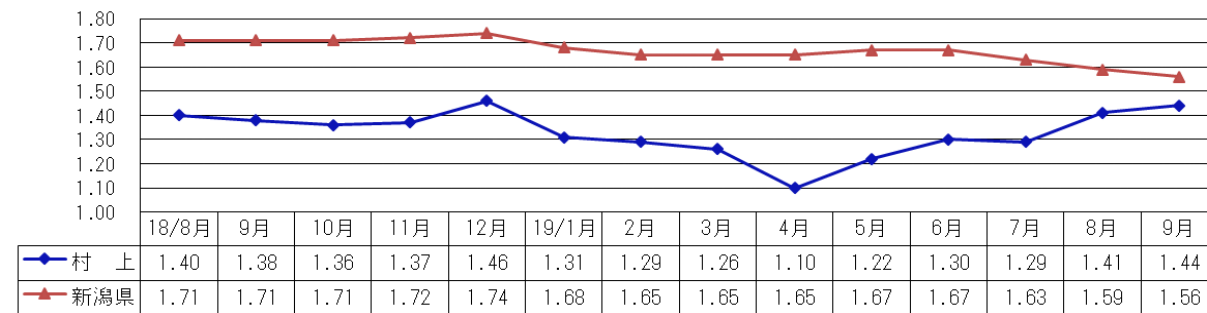


建築確認申請・工事届件数



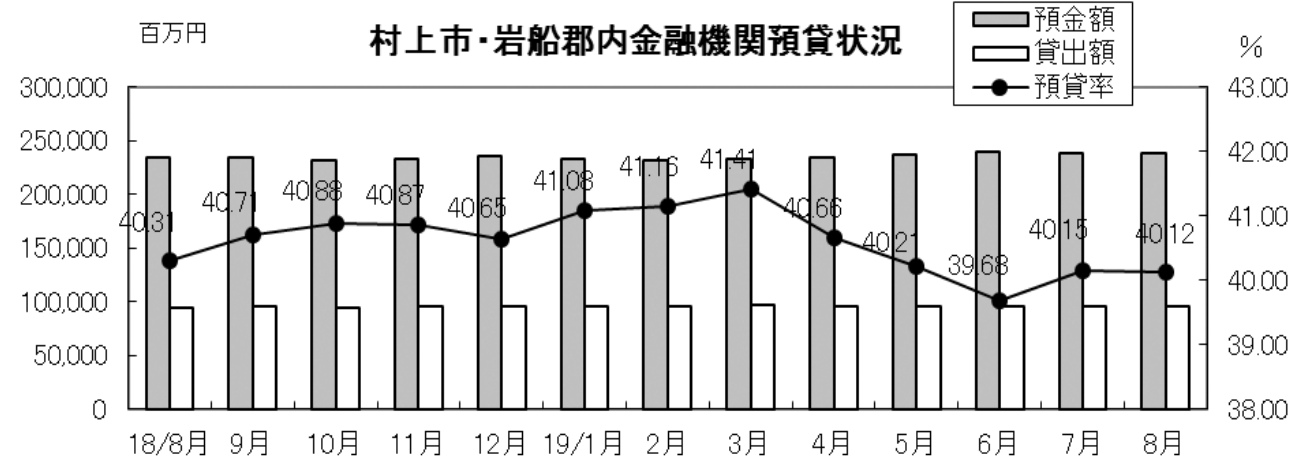
※本データは、新築・増築・改築の申請があった建築確認申請(民間受付含む)と工事届の合算となります。

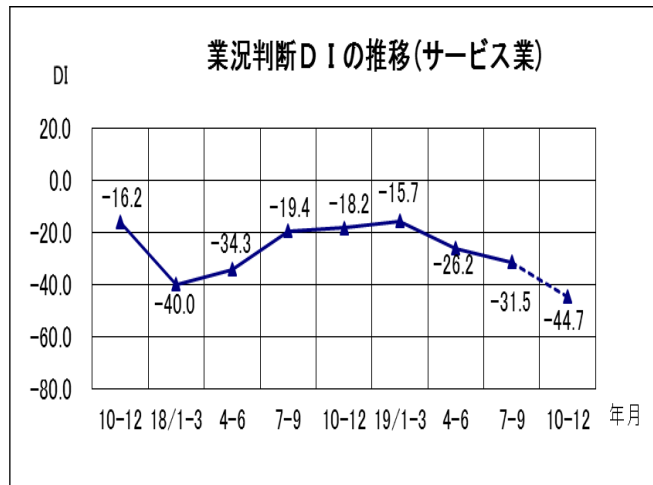
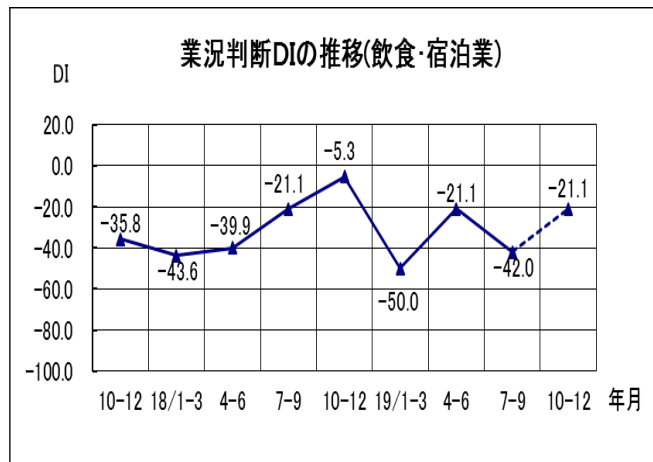
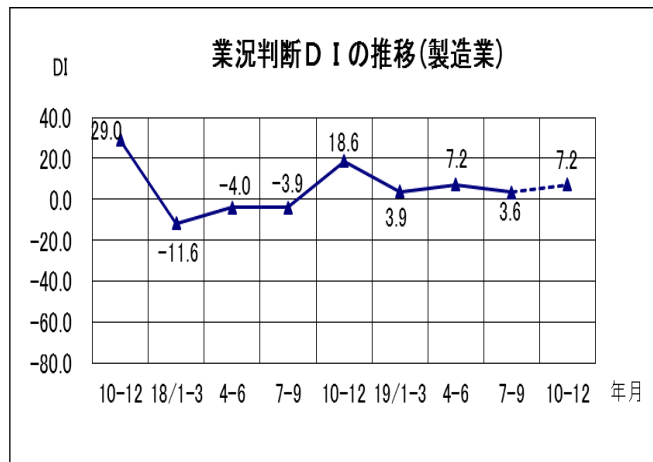
村上職安管内有効求人倍率(パートを含む全数)



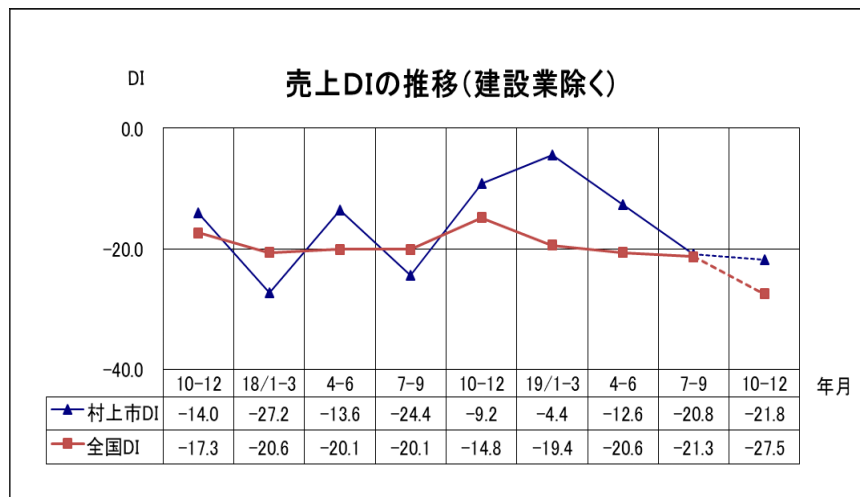
※上記有効求人倍率は、季節調整値再計算により改訂した数値を記載しています。

村上市・岩船郡内金融機関預貸状況



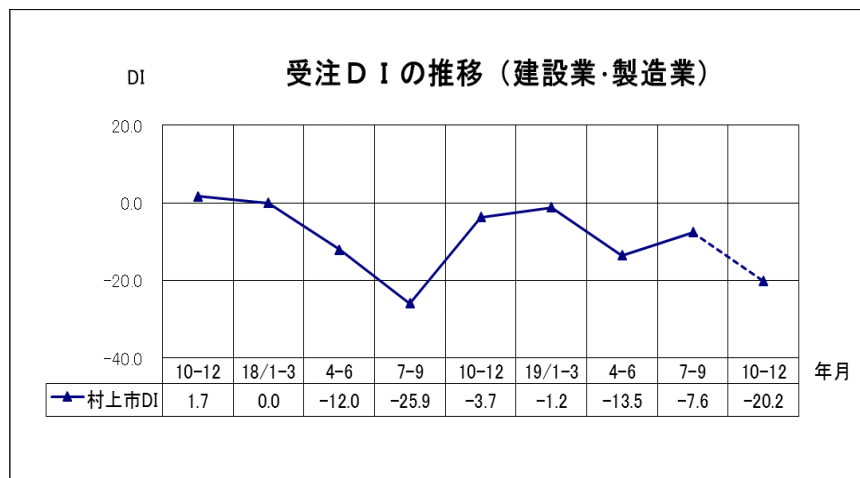


今期の業種別業況判断DIは前期比で、卸・小売業が、今夏の猛暑でエアコンなどの家電が好調で、また増税前の駆け込み需要も相まって4.5ポイント、建設業も防災・減災、国土強靱化関係の受注が順調推移するなどして0.4ポイント、それぞれ増加した。一方、製造業は取引先の販売不振や受注減少等で3.6ポイント、飲食・宿泊業も地震や台風の影響によるキャンセルの発生等で20.9ポイント、サービス業も人手不足等で5.3ポイント、それぞれ減少した。来期は、建設業とサービス業以外の業種で改善する見通し。寄せられたコメントに①年末需要期に消費者の節約ムードが懸念(卸・小売業)、②元請けが少ない(建設業)、③給食再開で少し商品に動きが(製造業)、④忘年会と人が動く時期(飲食・宿泊業)、⑤増税で来店者減少(サービス業)などがあった。



今期の売上DI(建設業除く)は、前期に比べ8.2ポイント低下し、▲20.8となった。前期における今期予測よりも14.4ポイント下回ったが、前年同期比では3.6ポイント上回った。全国DIも、前期に比べ0.7ポイント低下し▲21.3となった。

来期については、更に1.0ポイント低下し▲21.8となる見通し。全国DIも、更に6.2ポイント低下し、▲27.5となる模様。

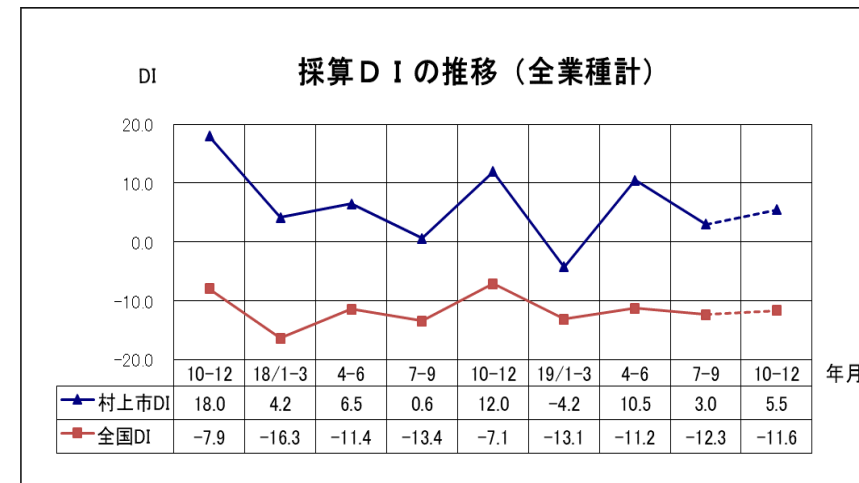


今期の受注DI(建設・製造業)は、前期に比べ5.9ポイント上昇し▲7.6となった。前期における今期予測よりも15.7ポイント上回り、前年同期比でも18.3ポイント上回った。

来期については、12.6ポイント低下し▲20.2となる見通し。

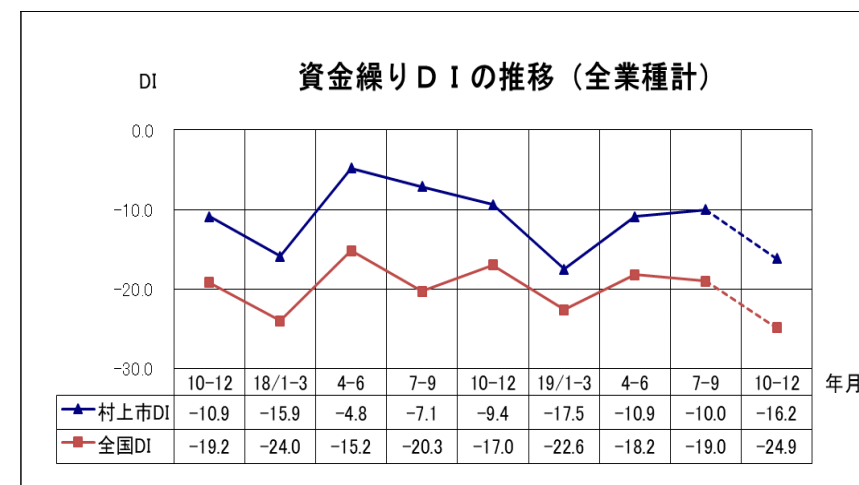
〈DI内訳〉

	前期	今期	来期
建設業	▲6.2	▲12.2	▲21.2
製造業	▲19.3	14.3	▲3.7



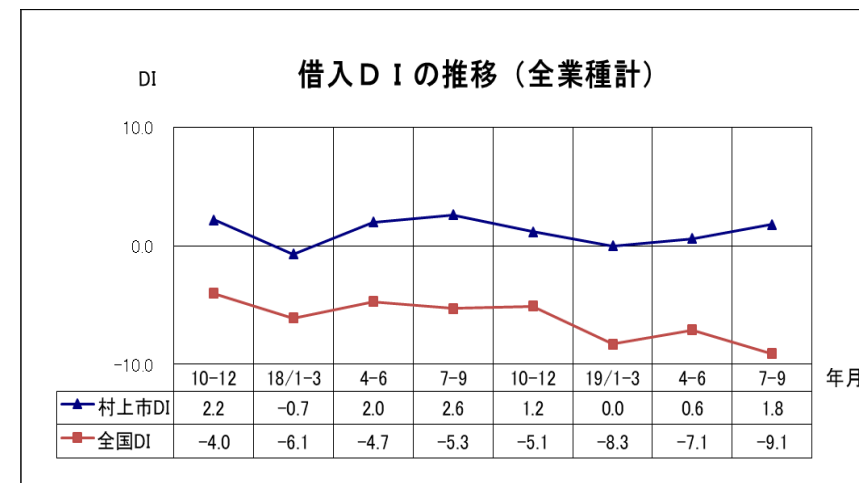
今期の採算DI(全業種計)は前期比7.5ポイントの低下で3.0となった。前期における今期予測より1.4ポイント下回ったが、前年同期比では2.4ポイント上回った。ここ15期一進一退が続いている。全国DIも1.1ポイント低下し、▲12.3となった。

来期については、2.5ポイント上昇し5.5となる見通し。全国DIも0.7ポイント上昇し、▲11.6となる見通しである。



今期の資金繰りDI(全業種計)は前期比0.9ポイントの上昇で、▲10.0となった。上昇は2期連続。ただ、前期における今期予測より0.9ポイント上回ったものの、前年同期比では2.9ポイント下回った。全国DIは0.8ポイント低下し、▲19.0となった。

来期については、6.2ポイント低下し、▲16.2となる見通し。全国DIも更に5.9ポイント低下し、▲24.9となる見通しである。



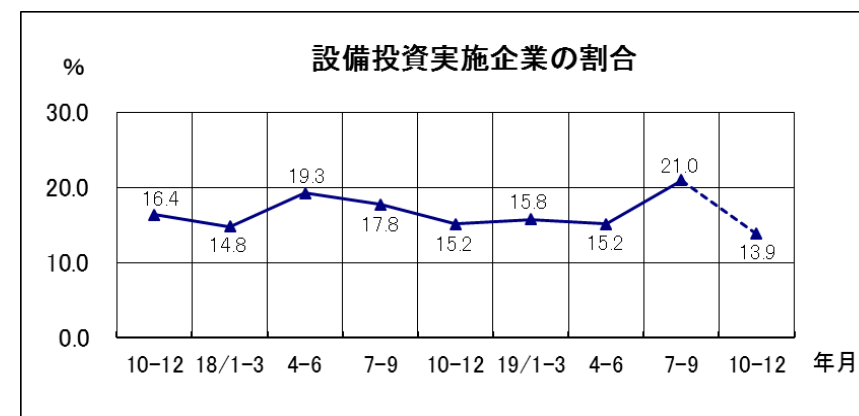
今期の借入DI(全業種計)は、前期と比べ、1.2ポイント上昇し、1.8となった。上昇は2期連続。

〈内訳は以下の通り〉

「容易になった」
前期 2.4% → 今期 3.0%

「変わらない」
前期 40.4% → 今期 38.7%

「難しくなった」
前期 1.8% → 今期 1.2%



全業種における今期に設備投資した企業の割合は、前期と比べ、5.8ポイント上昇し、21.0%となった。前年同期比でも3.2ポイント上回っている。

来期に設備投資を予定している企業の割合は、7.1ポイント低下し13.9%となる見通しである。